

東北大学金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター 研究棟の排気筒倒壊に係る立入調査結果について

令和2年4月14日
防災・危機管理部原子力安全対策課

令和2年4月13日に東北大学金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センターにおいて、暴風雨の影響により研究棟の排気筒が倒壊したことについて、県は、4月14日に大洗町とともに、下記のとおり立入調査を実施しました。

1 実施日時

令和2年4月14日（火）14時33分 ～ 17時20分

2 実施者

県、大洗町

3 立入調査結果

(1) 確認箇所

研究棟排気筒，第一化学実験室，第二化学実験室，排気機械室

(2) 施設の安全確保等の状況

以下のことについて、聞き取り、関係書類及び現場調査で確認した。

○ 現在の環境影響

- ・ 倒壊前後のモニタリングポストの値や、倒壊した排気筒の内面及び外面並びに管理区域の開口部について、表面汚染測定結果に異常がなく、周辺環境への影響は認められないものであること。
- ・ 倒壊した排気筒付近の土壌の汚染調査を今後実施することを事業者が検討していること。

○ 二次被害防止対策

- ・ 倒壊した排気筒に対して固縛などの飛散防止措置を事業者が検討していること。
- ・ 倒壊した排気筒周辺は一時管理区域を設定して関係者以外の立ち入りを禁止するなど、二次被害への対策がとられていること。

○ 研究棟内の全ての RI が、貯蔵庫等に保管された状態にあること。現在、核燃料物質は研究棟には保管されていないこと。

○ 拡散防止対策

- ・ 排気筒からの排気を行う排風機が全台停止していること。なお、事業者の保安内規において、使用を行わず管理区域入口が施錠され、かつ、核燃料物質等が貯蔵施設の格納容器に収納され飛散のおそれがないときは、負圧維持の必要がないとしていること。

- 排気筒の倒壊に伴って生じた管理区域の開口部に対し、応急的に鉄板及び防災シート等による開口部の閉止措置が実施され、さらに防災シート及びベルトを用いた排気筒開口部の閉止措置が実施されていること。また、今後、恒久的な措置として早期に排気筒の復旧を事業者が目指していること。

4 要請事項

- ・ 原因究明を進め、進捗について適宜情報提供を行うこと。
- ・ センター内の他施設について、強風対策が十分か確認すること。
- ・ 事故・故障等の事象が生じた際は、速やかに連絡を行うこと。

5 今後の予定

原因調査や再発防止対策について事業者から引き続き報告を聴取し、必要に応じて立入調査等に対処状況を確認していく。